

市民の声を計画に

本年度は「計画元年」。各分野での計画策定過程において皆さんの意見をお聞きする委員会などが開かれました。

土地利用規制の統一を目指し 市民検討委員会発足

土地利用規制の統一に向けた「都市計画に関する土地利用市民検討委員会」の初会合が10月26日、堀金総合支所で開かれました。



土地利用市民検討委員会は、農業、商工業、行政などの分野から公募も含め、28人で構成。

この委員会は、大学教授らで構成する「土地利用構想調査専門委員会」の提言をもとに、市民の暮らしの目線や各分野の視点から議論を深め、平成20年前半をめどに方針をまとめることを目指します。

この日は、検討の進め方や現

状と課題についての説明と意見交換が行われました。市では、来年2月には地域別懇談会を開催し、委員会の検討内容や、アンケート調査の報告をしながら、広く市民の意見を求める予定です。

交流学習センター(仮称) 委員会が公聴会開催

市交流学習センター施設検討委員会は、図書館を核とした複合型生涯学習施設(仮称・交流学習センター)の望ましい在り方について、検討した報告書の案を基に市民の意見を広く聞く公聴会を、10月20日に穂高会館で、22日に豊科ふれあいホールで開催しました。委員会では、公聴会での意見を踏まえてま

めた最終報告書を11月中旬に提出する予定です。

市総合計画策定のため 安曇野市市民会議開催

総合計画を策定するにあたり、地域の課題やその解決方法などを市民が検討する「安曇野市市民会議」の初会合が10月15日、堀金総合支所で開かれました。

この会議は公募を含めた市民55人で構成されています。参加者は、市民環境や健康福祉など6つのテーマに分かれて検討を行い、年内に「市長への提言」として意見をまとめる予定です。この日は、ワークショップ形式で「安曇野市の良い点、悪い点」をテーマに、課題の洗い出しなどが行われました。

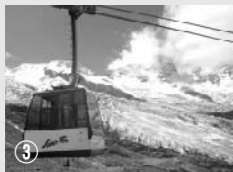
活発な意見が交わされた公聴会(写真上)、まちづくりの具体的な提案を目指す市民会議(写真下)。



サースフェー村の中心部。ほとんどがホテルのテラスは美しい花で飾られています。通りは清潔感があふれていました。



標高3,500m地点、回転レストランの外からアラリンホルンを臨む。リフト付きのスキー場が広がる。



1. サースフェー村入り口。われわれを歓迎して日の丸が張られていました。
2. サースフェー村の家並み。
3. 氷河の側を走るロープウェイ。
4. 施設内のシステムについて説明を受ける。右から3人目がブーマン氏。

前号で報告いたしましたクラムザツハ訪問に先立ち、スイスのサースフェーを訪ねました。スイス西南部、マッターホルンと背中合わせの谷の最奥部にあり、周囲を13峰の4,000m級の山と氷河に囲まれた標高1,800m、人口1,700人の村ですが、世界的なスキーのメッカ、リゾート地として有名で、年間を通して観光客が絶えません。

環境に厳しい村としても世界的に有名で、50年前からガソリン車乗り入れ禁止の条例を制定、建築基準もス

自然を保全しながら観光を進める村 スイスサースフェーを訪ねて

安曇野市長 平林伊三郎

勢は学ぶところが多い地でもあります。

一方で自然を最大限に利用した観光産業の発展に極めて積極的に、自然に配慮した開発を着々と進めています。村には5本のロープウェイがありますが、メインは村の正面にそびえるアラリンホルン(4,027m)の直下に向けて、3,000m地点までロープウェイ、地下鉄で

さらに500m登ったところに、回転レストランの大きな施設があり、観光客、スキーヤーやポーター、登山者などでにぎわっており、氷河の中に造られた美しい美術館も印象的でした。施設の中では熱の有効利用や節水型トイレ、廃棄物を極力少なくする工夫など多くの新しい試みがされています。

3年ほど前、安曇野の景観に感動したサースフェーの観光局長ブーマン氏の訪問を受け、新市誕生後、すぐにツアーブリックン村長連名にて交流の申し込みをいただきました。

今回はサースフェーの役場の方々と交え、情報交換をし、今後環境などをテーマに相互に交流の機会をとらえるよう努めることを話し合いました。環境、観光など関心がある方のサースフェー訪問を期待いたします。先方との仲介役を引き受けたいと思います。